

ツキノワグマの生態と保護管理



石川県環境安全部自然保護課

は し が き

本県のツキノワグマは白山山系に広く分布し、生態状況も安定しています。しかし、近年小松市山間部や白山麓でツキノワグマによるスギの皮はぎ被害が増加し、金沢市郊外の医王山麓などの集落周辺に出没して生活被害が発生しています。

これらに対し、県では平成13年度にツキノワグマの保護管理計画を策定し、地域個体群を適正に維持しながら農林業や生活に対する被害の防止を図るよう努めているところです。

ツキノワグマは豊かな森のシンボルと言われますが、ツキノワグマの生態を知り、ツキノワグマと人が適正につきあう関係を今あらためて築かねばなりません。

この小冊子が一助になれば幸いです。

表紙

ブナ林で採食しているツキノワグマ
(白峰村市ノ瀬)

も く じ

1	石川県内の分布	2
2	ツキノワグマの生活	
	(1) 身体のコツ	3
	(2) 出産と子育て	4
	(3) 冬ごもり	5
	(4) たべもの	6
	(5) 行動域と推定生息数	7
3	森林被害と防除	
	(1) 森林被害の分布と状況	8
	(2) 被害の防除	9
4	石川県特定鳥獣保護管理計画	10
5	人身被害にあわない方法	12
	ツキノワグマは森のシンボルー未来に残そう	13

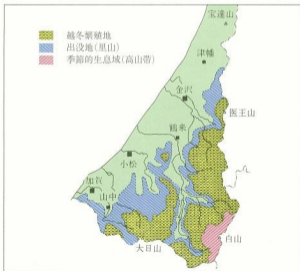


ナバタで顔をとる（吉野谷村松谷）

1 石川県内の分布

県内のツキノワグマは、白山はもとより西に連なる大日山、北へ連なる医王山の各山系に広く分布しています。その範囲は、白山麓をはじめ、金沢市、鶴来町、辰口町、小松市、加賀市、山中町などの3市4町5村の森林地域まで広がっており、面積は約1,100km²、県土の約25%になります。

なお、能登半島には分布していませんが、宝達山系や津幡町には、ツキノワグマが出没します。



石川県のツキノワグマの分布地域

2 ツキノワグマの生活

(1) 身体の秘密

○体つき

全身が黒色で胸に三日月の白い斑紋があります。体長が約120～145cm、体重が約70～120kgで本州、四国に生息する最大の哺乳類です。

○頑丈なあご

固いクルミの殻でも難なく簡単にかみ砕くことができます。そのわけは、頑丈なあごと、その力をだす強い筋肉にあります。あごの筋肉は頭のとっぺん近くから付いていて、あたま全体が万力の役目をしているようです。

○足のうら

足のうらの形は、ヒトの足とよく似ています。しかしツキノワグマはどんなところでも、ほとんど足音を立てずに歩くことができます。その秘密は…？ それは、足のうらに軟球とか指球と呼ばれる肉球があり、これがクッションの役目をして忍び足で歩けるといふわけです。

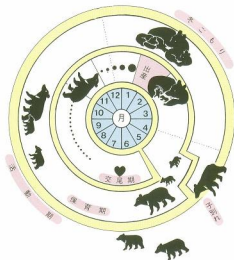


ツキノワグマの足のうら

(2) 出産と子育て

冬ごもり中（1～2月）に1～3頭の子供を生みます。大きさは500g前後でとても小さな赤ん坊です。生まれたときは、毛もはえておらず目も耳も聞こえていません。穴の中で母乳で大きくなり、4～5月頃には1kg以上になり毛と乳歯が生えています。

翌春には15～20kgに生長します。この間、母グマとともに暮らし、歯はすべて永久歯にはえそろいます。そしてこの年の夏、満1歳半に親離れをして独立します。このときには、体重30kg前後になっています。それ以後は集団をつくることなく、単独生活をしています。



ツキノワグマの出産と子育ての2年間

(3) 冬ごもり

食物の少なくなる期間を冬ごもりするツキノワグマは素晴らしい適応能力の持ち主といえます。

冬ごもりに用いる穴は、白山では標高1600m以下のブナ帯に多く、木のうろや割れ目、岩穴などです。入り口が狭くても頭さえ入れればツキノワグマは穴の中に入ることができます。

白山のツキノワグマの冬ごもりは、12月～4月までの間です。

冬ごもりが終わるのは、4月中旬～下旬になります。そして、その年に出産した母グマは遅くまで冬ごもりの穴の中にとどまっているようです。冬ごもりの約4ヶ月間、ツキノワグマは餌もとらず排泄もしないと考えられています。体温は、平常より5℃ほど下げて呼吸回数も減らし、体内のエネルギー消費量を少なくしています。冬の間のエネルギーは、秋に食べた栄養値の高いブナやミズナラ等の木の実を体の中で脂肪に変え、皮下や内臓に蓄えておいたものを徐々に使っていきます。

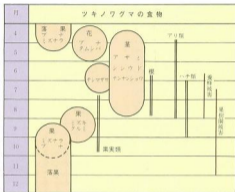


ヒメコマツの根元で冬ごもり (吉野谷村中富 1983.3)

(4) たべもの

ツキノワグマのたべものは、大部分が植物性のもので、動物性のもは、時々昆虫をとるくらいです。どちらかと言えば菜食主義者と言えます。

ツキノワグマの1年の食物



(図つたのは特に重要なもの)



アザミ



ブナの実

(5) 行動域と推定生息数

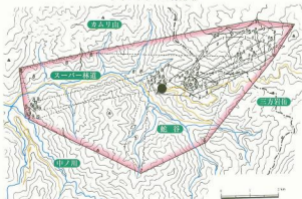
白山（蛇谷流域）で調べられた約1年間の雄グマの行動範囲は、約30km²でしたが（昭和57年～58年の記録）、これは、1頭が暮らすのには少なくとも、5.5km四方の森林が必要ということになります。

ツキノワグマは夜も行動しますが、主に昼間行動しています。移動距離は、活発に移動する日もあれば、全く移動しない日もあります。1日に最長2.7km移動した例もあります。

県内のツキノワグマの主な分布地域は、標高500m～1500mに分布しているブナやミズナラなどの落葉広葉樹林帯ですが、最近、集落周辺の里山で出没する例が増え、分布が広がる傾向にあります。

平成14～15年に定点観察法で調査した結果、県内のツキノワグマの生息数は約700頭と推定されています。平成7～9年に同じ方法で調査した結果では500～600頭ということでしたので、やや増加傾向にあります。

ツキノワグマの行動域



図の真中の●は捕獲地点、○印は冬ごもり穴の位置です。

3 森林被害と防除

(1) 森林被害の分布と状況

ツキノワグマは、主にブナやミズナラなどの天然林で生活していますが、スギなどの植林地域でも生活し、スギの皮を剥ぐなど森林被害を与えています。

ツキノワグマが樹皮を剥ぐことをクマ剥ぎといい、形成層と呼ばれる甘皮の部分に噛りあとが見られることからツキノワグマは主に食料として利用していると考えられています。

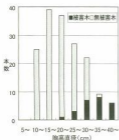
クマ剥ぎ被害はスギが最も多く、ヒノキ・マツ類でも少し見られます。成長の良い直径25cm以上の立木がねらわれやすく、地上30～130cmの幹の山側樹皮が剥がされやすいようです。

クマ剥ぎの発生時期は、4月下旬～7月下旬です。ちょうどスギの生長する時期にあたり、盛んに樹液が運ばれ、樹皮が剥がれ易くなっています。

被害にあった樹木は、全周を剥がされた場合、1～2年で赤く枯れてしまいます。一部でも樹皮が残っていればすぐに枯れることはないのですが、材木としての立木の価値は著しく下がってしまいます。

被害の状況は、平成9～15年に、県内6市町村で推定51ha、1億8千万円の被害が報告され、被害が拡大しています。

(石川県林業試験場資料)



クマ剥ぎ被害木の太さ



ツキノワグマによるスギの皮はぎ
(尾口村五味邑)

(2) 被害の防除

スギなどの皮はぎ被害を防ぐには下記の方法があります。

・除間伐・枝打ちの実施

除間伐・枝打ちにより見通しのよい林にする。

・枝おき

除間伐・枝打ちで発生した枝などを2束ほど積み、ツキノワグマが樹皮を剥ぎにくくします。

・忌避剤

ツキノワグマが嫌う成分を含んだ忌避剤を幹に塗ることで、興味をなくし樹皮を剥がすことを少なくさせます。

・テープ巻き

荷造り用のテープをらせん状に幹に巻き付ける方法で被害が軽度の場所で行い、簡単で経済的にも実施できます。

・ネット巻き

獣害防止ネットなどを幹に巻き付ける方法です。

・捕獲

被害の発生が進行している地域で、被害を他の林に波及拡大しないようにするため捕獲します。しかし、捕獲には許可が必要なため、市町村など関係機関との連絡が必要です。 (石川県林業試験場資料)



ネット巻きの状況

4 石川県特定鳥獣保護管理計画

(目 的)

ツキノワグマの健全な個体群を維持するとともに、農林業及び生活に対する被害を防止する。

(対象地域)

加賀市、小松市、金沢市、山中町、辰口町、白峰村、尾口村、吉野谷村、河内村、鳥越村、鶴来町、津幡町（12市町村）

(計画期間)

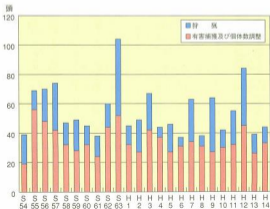
平成14～18年度（5カ年間）

(計画の方策)

捕獲数管理の強化と良好な生息地の環境を維持しながら地域個体群を維持する。

そのため年間捕獲数を推定生息頭数の10%以内とする。

● ツキノワグマの捕獲数



保護管理の地域区分

保護地域 白山鳥獣保護区、大日山鳥獣保護区
鈴ヶ岳鳥獣保護区

緩衝地域 保護地域及び排除地域を除く地域

排除地域 被害の発生している植林地、
農地及び集落地



(地域区分による取扱方針)

保護地域：狩猟及び個体数調整は実施しない地域

緩衝地域：狩猟及び個体数調整の実施地域

排除地域：被害防除及び捕獲の実施地域

5 人身被害にあわない方法

ツキノワグマの被害を避ける方法はツキノワグマに会わないようにすることです。

● ツキノワグマに私たちの存在を知らせましょう

鈴やラジオなどの音の鳴るものを身につけ、私たちの存在を知らせましょう。

● 夕暮れ時は気をつけて

暗くなるとツキノワグマは人をおそれなくなりえさ探しに夢中。人の接近に気づかなくなります。

● 夢中にならないで

山菜とり、キノコとり、溪流つりなどに夢中になりツキノワグマに近づく可能性があります。常に周囲に気を配りましょう。

<もし出会ったら>

● ツキノワグマを刺激しないように速やかに遠ざかりましょう

(急に走りだすとかえって危険です。)

● もし近づいてきたら

大声を出さず、リュックサックなどの持ち物をひとつずつ置いていき、ツキノワグマの気をそらしながらゆっくり立ち去りましょう。

● 子グマを見かけたら

近くに親グマがいます。危険です。速やかに安全なところへ立ち去りましょう。



ツキノワグマは森のシンボルー未来に残そう

ツキノワグマは、日本の代表的な大型哺乳類ですが、九州では絶滅したと言われ、四国では絶滅寸前となっています。本州においても孤立して分布している地域があります。しかしながら害獣のイメージが付きまとい、駆除してほしいと意見されることがよくあります。

ツキノワグマが生息する主な分布地は、ブナやミズナラなどの豊かな森林です。

ツキノワグマを大切にしていくことは、森という環境を守ることでもあります。森は私たち人間の生活を営む上での源でもあります。

ツキノワグマの生息に適した森を守り、ツキノワグマが生活できる森を維持することが、ひいては私たちの住みやすい環境づくりになるというわけです。

縄文時代以来私たちと共生してきたツキノワグマの生態系を守り、私たちの子孫に伝えていきたいものです。



ツキノワグマをはぐくむブナ林(金沢市大門山)

編集・構成	石川県環境安全部自然保護課 石川県白山自然保護センター
原稿協力	アルスコンサルティング(株)
写真資料提供	石川県林業試験場
発行	平成16年3月
印刷	株式会社 橋本雄文堂



ブナの花を食べる（古野谷村雄谷）